

平家物語

四五

秋山文庫

3-9

13



甲斐名勝志卷之四

巨麻郡之部

○巨麻郷 風土記或高麗と云此地不詳 予按小駒井村是

元正紀曰靈龜二年五月辛卯以駿河甲斐相摸上総下総常

陸下野七國高麗人千七百九十九人遷于武藏國置高麗郡云

駒井ハ高麗人の居りしと云意あり歟又當郡の地名條

と云所多し所謂上条下条 拾芥抄田籍部曰卅六町為一里

此六里為條條起從北行于南是其大畧也條の地名爰出

萩原



○當麻戸神社 風土記曰有巨麻乃郷西二百步外社樹圭
 田四十三束 欽明天皇二年辛酉四月初所祭大酒解小酒解神也
 有神家巫戸等 予按小駒井村の西二百步許りの尾鱗大
 明神の社有り是恐らく當麻戸神社也 杉の古木有り
 往昔ハ大社ト云テ華表ハ遠東の方ニ有其間ハ皆田ト云
 たり何邊の頃をリ 諏訪明神ト唱らるる

○穂坂牧 名所あり牧の事ハ己ノ前ヨ云

堀川百首 何ふさうの心奥路よりおち秋の田んぼの物さうり公実

年中行隻 時まぬく民もあそむ秋の田のやまの物さうり 入道大綱言
哥合

夫木 春くさのほろけ小野のこゑは秋のこゑ 壬生忠見

新葉 秋の田んぼさうり物さうりのまじりおちまはれ 後村上院

夫木 冥のれれとれぬもあそびのこゑは秋のこゑ 壬生忠見

○小笠原牧 いち一牧のむにわく草をまはる人よりそまはれ 壬生忠見

小笠原の名ありと云牧の名、異まゝと云も穂坂の牧の内あり

詞花 まえ出らざる葉のむらさき葉のむらさき 僧都覚雅

夫木 小笠原やけおちるのまはれまはれ 順徳院

堀川 小笠原あそびのむらさき葉のむらさき 顯仲朝臣

同 小笠原すくぬまはるる小笠原あそびのむらさき 仲実

家集 此書はけしむけしむの事乃約の事也 母貫之

六帖 小山系災至の由事に何の約もなき事あり神もよふ事あり

○穗坂堰大穴口碑 渡遣子固所作也 伊藤仁 齋門人

銘文云三之藏宮久保三津澤村民千餘口古來無水仰頼雨水晴日過旬則踰峻歷險馬牛以運溪水國王憫天下易得者莫如水而此村擢不得易得者命丘山口八兵衛源政後救其難苦堤於野長八千間穿風越山三百間及小山十所合四百間引淺尾堰之水名穗坂堰取諸庄名云三村之民非止得資飲水於村內亦墾稻田若干頃感載洪恩請勒于石因記

享保三曆戊戌三月起工九月告成

○團子新居村より俗に團子石と云ものあり是為餘糧なり

と云本州綱目曰石中有細粉如麵故曰餘糧俗呼為大一萬

餘糧萬餘糧乃石中黃粉生池澤其生山谷者為大一萬餘糧

云、是大一萬餘糧なり

○柳平村小織女の祠と云有延喜式所載倭文神社なりと云

神代卷に倭文神建業推命有早按常陸風土記建業推命

又茲郡一下りのあり麻と作と布と織とを教ふ其地を倭

文郷と云何れ倭文ハ賤織の訛なり以説さる織なりと云

七月七日祭祀 何也

○巨鼈山天澤寺 曹洞宗 相傳 後土御門院御宇文明五

年草創開山鷹嶽禪師其後飯富兵部少輔虎昌再興寺領計五石余

○龍王社 龍王村 一宮淺間明神二宮美和明神三宮國玉明

神三社の御旅所あり毎年四月中の庚日祭祀有一宮二宮神輿三宮ハ神馬あり御幸は國中ハ諸人群をあり甚濫

觴をあり守一説ハ 鴻和天皇天長年中始り云

○笠掛明神 德行村 祭神事代主命也鎮座不詳相傳延喜式

所載笠屋神社ありと前々云山梨郡等力郷諏訪明神の社

此説何れハ兩社何れハ是れありものを考へらる

○義清明神 西条村 相傳武田義清朝臣の灵を所祭也義清

ハ新羅三郎義光の三男あり逸見冠者ト号久安元年乙丑

七月廿三日卒七十三歳也ト武田系譜にあり

○宮原村ハ鎌田ト云地名有土人相傳左馬頭源義朝乃家

臣鎌田次郎正清ト住一所あり平治の乱の後長田庄司忠宗ト

云男專子代此地ト来り鎌田ト頼ト復りト云今ハ田氏ハ

專子代ト云孫ありト云

○御嶽権現 祭神三座少彦名命大己貴命素戔鳴尊
也金性大明神ハ日本武尊也鎮座不詳相傳延喜式所載金
櫻神社是也社領十石余山林凡七里許社家數多^ハ事
後陽成院御宇文祿年中淺野侯造宮有又櫻大明^ト
古木の櫻數株有隆井僧正の寄みい^ハのよ^ハ殿と
月^ノ寸^ノみ^ノ事^ノ山^ノと^ノ事^ノの^ノ記^ノも^ノく^ノら^ノ也

○金峰山 屬山 梨郡 絶頂ハ祠有藏王権現を^ハ御嶽の社^ハ乃^ハ本
宮也^ト云國民八九月乃^ハ頃登^ル水精磁石等を産す荒川の
源^ハ此山と^シ出^ル又此^ノ源^ノハ信濃の佐久郡一^ノ出^ル曲^ル川

此^ノ説^ハ一^ノ説^ハ此^ノ山^ノを^ハく^ハみ^ハく^ハ風雅集^ノハ順徳院の
御製^ハち^ハく^ハま^ハの^ノを^ハり^ハお^ハす^ハん^ハの^ノま^ハき^ハを^ハい^ハく^ハら^ハり^ハの^ノの^ノ
ま^ハき^ハを^ハい^ハく^ハら^ハり^ハの^ノの^ノ中^ノ扱^ルん^ハ也^ト
い^ハく^ハら^ハり^ハの^ノの^ノま^ハき^ハを^ハい^ハく^ハら^ハり^ハの^ノの^ノ金^ノ峰^ノ山^ノの^ノ名^ノを^ハい^ハく^ハ
ら^ハり^ハの^ノの^ノ鑿^ノ説^ハ也^ト

○比志神社 比志村 祭神藏王権現 比志権現と云國史所載
比志神社也往昔乃^ハ社乃^ハ跡^ハの^ノ山^ノあり^ハ石乃^ハ祠有^ハ古宮と云
三代実祿日貞觀五年十月六日甲斐國正六位上比志神授
從五位下云々

○八嶽 以山西ハ信濃國諏訪郡北ハ佐久郡ナリ嶺分ニテ
 ハ有故ニハカ嶽ト云々ハ麓ノ小荒間ナリ絶頂者四里許者
 小荒間村ニ恣性院ト云禪院有武田機山彦建立一ハカト
 村ノ東ノ方ハ天文九年二月十八日信濃乃村上氏ト武田勢合
 戦有一地ナリ今ハ剣戟ノ折ラ或ハ鉞^{ツル}ナリト云々ハ四間ト
 云々大石ナリ機山彦登リ遠見一ハカト云々又御座石
 有信濃佐久郡一ハ道場ト云原ハ天文八年閏六月廿日武田
 勢村上勢合戦有一地ナリ

○谷戸村小城の腰ト云所ナリ逸見黒源太清光住多ハ
 館の跡ナリト云堀の形ナリ残ナリ向世の比焼一ハ麥ナリト云
 山上ニハ幡の祠ナリ

○朝陽山清光寺 曹洞宗 大八田村 相傳逸見黒源太清光建立關山

悦堂和尚也清光ハ新羅三郎義光之孫逸見冠者義清之子

也清光之墓有 清光院殿云源大公大居士 正治元年戊子六月十九日

○諏訪明神 上手村 祭神建御名方命鎮座不詳相傳延喜式

所載宇波刀神社也 三代実録曰清和天皇貞觀八年三月

廿八日授甲斐國從五位下宇波刀神從五位上云々風土記

裏門神社有毛三毛一圭田三十八東三毛四畝田所

祭 蟲触不見字 敏達朝行式例云々

○新府城跡 中奈駒井穴山三村の場より天正九年武田氏

躑躅が崎の城を改め遷す所也いづれ修造すべし同十年三月

城あり今は焼跡なり若敷所此地は稲荷の祠有城の西南の岸長

七里余續りて東南の方より並崎とて所有山の中鵬は岩窟有

俗は穴観音と云此邊は天文十九年七月十九日村上諏訪の

西勢と武田勢合戦有一所あり

梁塵秘抄よりかむよと云て山の名あり此山を山と云ふ

海や川に山すの志けき山と云ふもみまに並崎の
あり並崎のあやまると云

○駒嶽 信濃高遠領の境あり往昔名馬場と云傳高遠

より八前嶽と云峯は數千仞の巖ありを回りて地頂あり

十歩許りの平地あり石仏の觀者一區有此山の西は木賊川と

て高遠一流より川有風土記は巨麻郡西限木賊川と云は是也

又甲斐の方より流る川は釜無川と云

○鳳凰山 地花嶽茶師嶽と云山あり鳳皇山と峯は

けし是を三嶽と云林鹿の柙澤と云所は宿りて登る山中は

伏く望み又極澤の陽の諏訪の湖水見たり佳景あり絶頂
 乃岩の上より黄金あり鑄る三寸許りの衣冠の像あり鳳凰
 権現と云見奈良の法皇の御影あり我わたりより重きしか
 盗賊あり此像を取らんすと獲る重きと般右石の云く一か
 盗をくすとあ得猶岩の上よりとて土人云む一お奈良の法皇當
 國を流されしと此山を登りて都を去りしゆなり法皇を歡喜
 西河内領奈良田と云所は法皇乃往りし一跡とて礎今も存り
 是弓削道鏡ありんとて予撰に續日本紀に道鏡は下野國に
 流されぬ師寺の別當ありと云く又くは道鏡は河内なる

一御川も何れの法皇と云事なきは惜むと云今昔傳
 を見ふ奈良田に鹽井あり潮湧出る本州綱目鹽井者今歸
 州及四川諸郡皆有鹽井汲其水以前作塩如煮海水法と河
 内と是其類あり又温泉有奈良田の温泉と云

○白嶺 かむろ祓もかひの志く福も云名所あり此山四時雪
 あり後河の國大井川の源は此山中より出ると説はかひの山
 乃名を阿守すと云甲斐の高山と云ふ
 古今 かしぬをよむのまがらくは山は山と云ふ
 同 甲斐の山は阿守と云ふと云くは山は山と云ふ

後拾遺 何方より山の幸に福なきは常なるをいひてやれ 紀伊式部

續後撰 みのぬきや雪より神宮にくだれどもや乃中山 蓮生法師

新撰 雪はもろくの幸にぬきや雪よりいふも乃中山 大江茂重

御集 雪よりもろくの幸にぬきや雪より神宮にくだれどもや乃中山 後鳥羽院

玉葉 かひくも小木の塔吹く秋風もぬきや雪よりいふも乃中山 定家

新拾遺 甲斐系にぬきや雪よりいふも乃中山 寂直法師

夫木 去れぬ雪をぬきや雪よりいふも乃中山 信實

同 かひぬき山よりいふも乃中山 順徳院

家集 惜しむぬきや雪よりいふも乃中山 忠岑

○苗鋪山 上ノ山 麓より二十余町上り了虚空藏堂有り國內足る佳

景也一説は風土記は所謂白雪寺是也と云西行法師此地を過り

甲斐のふちのぬきや雪のぬきや雪のぬきや雪

○洲澤城跡 今ハ須沢 苗鋪山乃麓あり山をかり登りて平地有民

家數十軒有り大平記小觀應二年十二月高武藏守師

直兄弟京都没落の時猶子師冬鎌倉より甲斐の國洲沢の地

より引籠るを諏訪下宮の祝部を先づりて近國乃兵等相集三日

三夜と城を攻るもくまの地あり

○白須松原 驛路の邊あり

未だ志守の流のひらくもすまの月が 作者不詳

○武田八幡宮 北宮地村 相傳 嵯峨天皇御宇弘仁年中鎮

座也社領廿七石余其後或田義清朝臣此地住あり武田

と称号とい信光朝臣の時當社より山梨郡石和の郷より奉勅

請今の石和八幡宮は是也此邊より武田氏館跡あり社の上の山

菱岩とい岩有左の方凡山と鎮西八郎為朝祠あり土人疱瘡を

祈るに験ありとい傳

○南宮明神 甘利郷上条 東割有 祭神三座金山彦命建御名方

命夏代主命也鎮座不詳相傳延喜式所載神部神社也

龜山院文永九年造當之夏社記より見へり社中小七圍半
許り大杉あり社領十六石余

○法性山永岳寺 甘利郷下条西割 臨濟宗 本尊不動明王開山大覺

禪師也寺領三十三石余

○御勅使川 一説志川といは是也此川洪水より水大に漲り

といふも常より流き出也故より此川の名何もと云又一説は

志川は荒川也荒乃字乃冠を諺ると云予按ると志川の字に

といふ冠を諺ると云土人何といふ川に改め唱んや恐らくはり

す凡川は御勅使川ある歟

夫木 乃川川まゝやすれぬ地は山に生きたるゆゑもまき忠々
 同 とき人乃川止れぬまゝ川河をまき居たりし人 藤原忠隆
 ○安通村 夫相傳いふ一大礮の虎と云遊女出所也虎尼
 と云のち故郷より帰るに今神に祭有

○高尾山稻荷社 相傳延喜式所載穗見神社也往昔八國
 民稻穂を獻しと云稻荷八得食神ウケモノと云五穀を司神と云あり
 故に穗見の号有あり享保十三年七月國中洪水時此山の
 麓乃溪水大に漲り岸を崩し流るるに土中よりやまき石碑
 出あり銘穗見の神社とあり字形古跡と見しりとも今

神殿乃中よ有と云

○上野城跡 椿城と云上野六郎長盛所築也天神の祠
 有る長盛の霊と云ありと云傳近き比此地を堀出せし鎗
 里人秋山何某の家小有其銘云文曆元年八月日竹光作之
 有文曆、四茶院の御宇や鎌倉社茶泰時執権の比也
 和夏始本朝少鎗乃始り大平記に任吉合戦の時阿間
 野了願と云法師武者つひ始りと載と云も其以前より有
 又より鎗塚兜塚と云有恐らくは九城主乃墳墓ありん
 後醍醐天皇御宇嘉曆の頃城主秋山五郎光吉其妻不義阿

ろしと疑ふ何れ地は真似とて竊に主婦は他人の聲
 に似せと強て戸を叩くを内に入ると妻短刀を以て刺
 殺し火を焚くも九八他人は何も我夫あり妻恨悔を終り
 川の身を投て死と云辭世乃奇小かき男はあまひもなれ
 る打澤乃ありれと云もとんを以嘉曆三年二月十三日也
 水重寺と云寺は此辭世石礪より此川と今一の瀬川と云
 おし八子打澤と云りあり

○三輪明神 下宮地村 祭神大己貴命也鎮座不詳社領十六石余
 又上宮地村に離宮あり毎年四月卯日神輿御幸有上宮地

乃社又大なる杉有六圍斗有鳥井の額と神山と者又此邊
 大和川あり 中 按るは大神川轉語あり大神を三輪と訓
 ずれば此川あり

○大神山傳嗣院 曹洞宗上宮地村 本尊釈迦佛舍利也 後土御門院
 延徳二年開山列安素彭和尚寂寺領六石余

○充富山隆圓寺 曹洞宗下今井村 相傳 後土御門院文明年中草創
 開山偉天周弘和尚寺領廿五石余

○加賀美山法善寺 真言宗加賀美村 相傳 嵯峨天皇弘仁年中草
 創弘法大師開基也往昔八山寺村と云所と今六古寺家と云

中古何れも乃比、此地小遷る寺領九十八石余此地加賀美二郎
遠光の館乃跡あり寺の後小築地堀の形残あり

○小笠原村小柿平と云所有小笠原大膳大夫長清館の跡
と云傳今御所庭と云

○秋山池 秋山村光照寺と云今小池と云あり主人傳言國書受

つゝ心寸此池の血の色と変又山梨の御堂山鳴動す
山もや康家片山の跡と云秋山の他ありゆきとん世多公
形也と云ゆきとんゆきとんゆきとん人口ゆきとんゆきとん又秋山中跡
との間の山上に城跡ありと云秋山太郎光朝より秋山氏代

住多城論也と云光朝八加り美次郎遠光の男也

○桃園村一説と云清和天皇の皇子貞純親王受食封地

也と云親王延喜十六年五月七日薨す桃園宮十六孫王經

此地と云若宮八幡の祠有是貞純親王た電と云と云

○金剛山明王寺真言宗相傳光仁天皇室龜元年草創

開山行圓上人也寺領廿石余

○補陀山南明寺曹洞宗開山明峯素哲和尚 崇光帝親應

元年三月廿八日寂明汰乃本寺也天正十一年 東照神君奈

良田の温泉と云浴あり時當寺と云數日滯留あり寺領廿二

石余岬邊と大井庄と云倭名鈔所載大井郷と云

○最勝寺 真言宗 最勝寺村 相傳 聖武天皇依勅願天平年中南

都西大寺之忍正律師開基也寺領廿六石余往昔大寺あり

一と云正の比兵火の災あり伽藍焼失

○德榮山妙法寺 日蓮宗 小室村 草創不詳相傳往昔八關八州修驗乃

司也中古日傳上人日蓮上人の弟あり其氣を當宗に傳

○青柳村 近江より岡名ありと云るも近江何處とも云

あつとも云ふ

名寄君代民の心を一と云ふは寺々又あるも極の如く左京大補頭仲

同 いかりはのきい丹もりせし青柳のききい丹もり

○往昔淺原村の邊大豆生田と云村あり其頃八釜無川

西南湖と東南湖と二村の間を流るるを和名はれはるる

洪水ありて東南湖の南あり大豆生田一も溢るる人家田畠

く湧出ぬ此地小幡の社有岬邊七郷の産神也其比南湖

村に加賀美次郎左衛門入道宗参と云武士有彼八幡の神

跡を己の館の邊に新と社を建辛遷一あり神器は村に

ありたり各社を造り築きりてれはる大豆生田村ハ承

廢絶せり其後逸見の郷大豆生田村を建るる今

大豆生田村是ありかくの如きのるも河川前よ云等カ栗
 原の二郷巨麻郡より山梨郡へ遷し建てるも河川前よ云
 ○鯉澤 此地より富士川の舟を乗り駿河國岩淵迄九
 道十八里流きとや于故小日のうらたれと富士川のゆき
 已よ前よ云 山川は小石ありれとありくと河川前よ云の
 産物と云ふかを此方よりわたりれと云ふれと云ふれ
 ○蹴裂明神 鬼嶋村柳川の邊より土人お傳大吉此國
 湖ありし時此神山を蹴裂れを避給ふより蹴裂明神
 と崇祀と云

○源氏嶽 十谷村の邊より相傳新羅之節義光の住
 めり城跡ありと云義光は伊豫守源頼義の三男あり大治
 三年十月廿日卒七十二歳甲斐源氏之祖あり一説は二日
 市場村は新し原と云所多新羅之節義光の飯詰ありと云
 ○三光山大聖寺 真言宗 八日市場村 お傳當寺は加賀良次郎遠光建
 立ちり本尊不動明王、遠光は庭よりと云新羅
 三郎義光の父良次郎遠光武田信玄の身係あり
 各長二尺許りの坐像あり往昔大寺ありと云今寺領五石余
 ○粟倉山の麓網ありと云所より俗は貝石と云石也

實^ハ難^クの貝の石^ノ北^ノ方^ニとく^ク又^ク奇^ノ石^ニ又^ク小^ノ原
崎^ノ所^ノより^モも^ト物^ノ所^ニ

○穴山氏館跡 下山村日蓮宗本國寺と云寺是其跡あり
穴山氏六代此に住りて穴山氏菩提所ハ華岳山龍雲
寺と云曹洞宗の寺あり代々墳墓有

○身延里 名所也

夫木 西行法師の女の里の塚地ありし也西行法師

○身延山久遠寺 日蓮宗惣本寺也 龜山院文永十一年五月日蓮上人鎌倉より此地より來りて此寺を領主波木井

實長上人を崇敬し山を寄附し流る上人西谷の思代
と云所より草庵を築いて住み其後花園院正和の頃日向
上人建立也

之の所の浮きもその女の石を此寺の山に日蓮上人

三才圖繪曰日蓮上人姓三國氏房州長狹郡東條郷小湊敢
川村貫名左衛門重忠之子也貞應元年二月十六日生十二
才而出家弘安五年十月十三日寂于武州池上宗仲寺納遺
骨於身延山云々 相傳此地ハ新羅三郎義光四世孫波木
井實長の領地あり身延飯野波木井三郷の領主あり波木

井殿と稱し波木井村の上は館跡あり武田信虎の時駿河
今川家の臣久嶋何某同意して甲府まゝ乱入飯田川原
あゝ及合戦は久嶋終は打まけて戦死す其時河内領
の武士等久島と同意の者皆所領没收せしむ

○七面山 身延山乃奥の院と云身延山より三里余有七面明
神乃祠あり山上は池有七面明神乃縁記あり畧々一説は七面

明神ハ江州坂本の山王七社権現を遷し祭る故は七面の名有と云
○雨畑山より硯石出る雨圃石と名産あり予按は古事記は
天堅石と云何れも雨畑ハ天堅の訛と云ふ此所の山十里許

駿河遠江信濃の邊より

○大野山本遠寺 日蓮宗 大野村 寛永年中紀州台山君建立し

久開山ハ身延山廿一世日遠上人也紀州娘君の墳墓有

養珠院 殿上号 寺領ハ大野梅平村少く二百六十石有

○南部氏館跡ハ南部村ハ今島とあり此邊は古

城山圓藏院と云臨濟宗の寺あり南部三郎光行建立

少く寺領二十五石有

○續日本後紀曰 仁明天皇承和二年詔甲斐國巨麻

郡馬相野空閑地五百町賜一品式部卿葛原親王云々

日本後紀 卷之四 仁明天皇 承和二年

親王者桓武天皇第三皇子平氏之祖也
 文徳天皇仁壽三年六月薨于守
 今此地不審後の考と
 待の

○万澤又城取山と多行り萬澤遠江守と文人任一と
 ありしと傳

甲斐名勝志卷之四終

甲斐名勝志卷之五

萩原元克編輯

都留郡之部

○都留郡 名所也

後撰 君行の巻の歌よりとて取置事なれども此もかく 伊勢

新千載 きつるのちかひとぬはさるゝ歌を評さるる 忠岑

夫木 万葉集のつらんをまをさるの歌乃とてとある 八条院上茶

碧玉 忍野の無風潮の浪未落の歌たてとてとある 政為

千首 赤江之と忍野とて評置るの歌の百のたけとて 師兼

甲斐名勝志 卷之五

千首 千世經人路の歌は首とのほぬまをたふすなり 米雅

○都留郷 倭名鈔所載也今此地不詳 予按之鶴川の邊あり

今鶴川驛 鶴鷹等の地有之れらや其遺名なりん一説は明見

村と池有此邊に諸者より鶴鷹あり此地路の郷なりん云

○早女坂 上野原の東諏訪の関に邊あり風土記に都留郡

東限早女坂云是なり今ハ早乙女坂とも云

板野 名所也柵原村の井戸と云板野と云野有者多し

茂也に里人いふやと喝ふ

六帖 かの園居の歌に板野をよみて宗茂は早女坂 佳忠岑

○長岑岩 ナガタマ 驛路の側あり相傳天正年中武田の家臣

加藤丹後守所築也此邊に池有長岑の池と云

○熊野山西光寺 臨濟宗 野尻村 本尊虚空藏菩薩也相傳往昔弘法

大師入唐一のひ帰朝の時唐帝より所賜尊像也 淳和天皇

天長元年華野之女と云く當國に來り此地に寺を建立し彼

尊像を安置しりし事あり其後に此の比當宗と云たり

○猿橋 桂河に懸る長十丈橋下三十余尋俗説に往昔智

阿の猿の樹杪を傳ひ渉る事あり造始る橋也と云一説は百

濟人の造始る橋と云一書曰推古帝二十年百濟國歸化

人有白癩巧掛長橋今造遺諸國三河國八怪橋信濃國水内曲橋
 木巖梯遠江國濱名橋陸奥國會津關川橋兜岩猿橋等其外
 一百八十橋云々此書よるる百濟人の造始なり云々
 かり此書をせよ聖德太子の選りたり云或人の云此書太子
 の選りたりも全く後人の妄作なり書きて信用されず
 按よ此書の中兜岩の二字を甲斐の假字み用たり兜岩が
 訓岩いなり訓がふたれゆいなりゆいなりゆいなり讀たり甲斐
 いひの假字みいなりゆいなりゆいなりゆいなりゆいなりゆいなり
 延喜承平以来書よ、假字あふ事なりゆい然る太子の選り

ゆいなり後人の偽書ゆいなりゆいなりゆいなりゆいなりゆいなり
 碑の銘文も畧々此地の民家一巨石の上よ遠り
 宗祇回國記詩歌有
 雲霞漠々渡長梯四顧山川眼易迷吟步誤今疑入峽溪
 限殘月斷猿啼

あつ月夜ゆいなりゆいなりゆいなりゆいなりゆいなりゆいなり
 乙のやゆいなりゆいなりゆいなりゆいなりゆいなりゆいなり
 谷津ゆいなりゆいなりゆいなりゆいなりゆいなりゆいなり

○戸野上村閻魔堂驛路の側有里人相傳此堂往昔八幡

の社武田の家臣奥秋加賀守と云々錦倉より運慶の作の閻魔
乃像を持来り此堂に安置し八幡宮を東南の山に遷し祭ると
此堂の棟札は美平元年と有天明近凡八百五十余年也

○菊花山駒橋村幸翹寺と云禅院の東南の山也又菊花石と
云有大き三尺許菊花の紋有今幸翹寺の内より

夫木 吾れみ栗のりて甲斐の山麓にありと云 長家

此歌註云風土記甲斐國鶴郡有菊花山流水洗菊飲其水人壽

如鶴云々今風土記此條闕不見

○岩殿権現号七社権現祭神 熊野山藥王見
伊豆箱根蔵王 相傳平城天皇

大同元年鎮座也山岩窟の中より各木像長七尺許の立像也
又觀音堂有て三重の塔あり九輪の下乃并形に銘文有美平三
年七月十日大比呂建立と云々別當常樂院大坊と云修驗傳
り社領十四石此造り小山田氏の城跡有今も陳鐘者小山田氏
代に都留郡を領し事久し天正十年武田氏滅亡の時
叛逆より織田氏の所と云々殊せしる家亡ふ

○淺利村は淺利与市義遠住し所と有俗説は与市錦
倉より負来たる石地藏と云々長七尺許有与市地藏と云今
八代郡も淺利村有と与市館跡有兩説あり是等も

○初雁里 東鏡は波加利と云此里は木の葉の紋ありて
木葉石と云又燃石あり予按日本紀天智天皇七年七月
越國獻燃土與燃水と云此類あり予宗祇田國記

今此を尋ねて見れば此の初雁里

○笹子山 黒野田驛より八代郡駒飼駅へ越於山あり行程

二里 予按東鏡は所載坂東山と云是ありん歟

○真木村 予按風土記有牛馬之牧毎年依本寮之命貢
駿馬肥牛云々真木の牧あり予按見畝と云所云小堂有里人
云親鸞上人の入り堂也と云所云太常の名号と云有

○和田村 此里は月代を不剃平親王将門の後胤と云傳

一説は和田義盛の裔ありと云予按東鏡は建保元年五月

和田左衛門尉義成滅亡の事を記和田左衛門尉常盛山内

先次郎左衛門岡崎与市左衛門横山右馬允古郡左衛門尉

和田新兵衛入道以上大將軍六人適戰場遂電云々其後古

郡左衛門尉者於甲斐國坂東山波加利之東競石郷二本自

殺和田左衛門尉常盛件兩人之首今日到來云々今の古河

ハ古郡の轉語あり古郡左衛門尉の領地ありと云たり和田

新左衛門尉也此地は同じく來りも波加利ハ初雁あり

山梨郡初鹿野をえど加の訓類をん然れ常盛其妻
 等も此山中又遁隱する所なり常盛其義盛の嫡子あり
 ○丹波山 武藏國多磨川の源あり倭名鈔云武藏の多磨
 郡を大婆少と誣此地は往昔 日本武尊當國一入り路也
 今大菩薩通り也

○大幡山廣教寺 曹洞宗 大幡村 相傳 後奈良院天文年中草創

開山石心禪師寺領四石余

○富春山桂林寺 臨濟宗 金井村 相傳 後花園院永享年中草創

開山格知禪師小山田出羽守富春建立也小山田氏代の墳墓あり

○大儀山長生寺 曹洞宗 利子村 相傳 後主御門院文明元年武田刑

部大輔信昌朝臣建立開山鷹嶽禪師其後領主小山田氏崇教也
 寺領三十五石小山田氏墳墓有以東倭名鈔所載征茂卿有今八川
 茂少唱ふ

○谷村古城 相傳文祿年中淺野氏所築也其後鳥井善佐守

本堂伊勢守秋元但馬守相續て住居せしが寶永年中廢

○生出山諏訪明神 四市場村 祭神建御名方命也鎮座不詳

八月朔日祭祀を以邊を羽休庄と云

○禪定山長安寺 淨土宗 上谷村 有傳 正親町院天正年中草創開山

生譽上人感負和尚鳥井土佐守建之あり

○八幡宮川柳村祭神 應神天皇相傳往貫谷村城山鎮坐有

一を文祿年中淺野氏此山上に遷し祭於勝山神社也云

○牟登宇坊墓 小野村真福寺の舊地なる主人小野小

町墓と云祈願も事ある者此墓に祈願せしむる必り驗

少云此邊に御相醍と云山有山上に御相醍権現の社有

○菅野村より道志の寒地と云所 越於山路に道坂也云

路の側ある小石の崩れ落る申より此石也云主人と云

山葵擦の代り也云すまは奇石なり

○大牟礼坐須 高山也此山を武藏の方と俗に富里カスと云此

邊と道志也云今相模の國に近し相模に下道志と云有て此

地を上道志と云呼す按て倭名鈔所載相模郷あり下道志と

右邊の内なりと云河川の比に甲斐に属しと云と相模と云呼す

○朝日村より秋山村越山路を雛鶴峠と云人傳云往昔右大将

源頼朝卿金札を付て放ちて此山より雛と云青い鳥也と云

○住吉神社 鹿留村相傳風土記所載住吉神社也風土記曰

元明天皇和同二年己酉六月佐伯公蔭勸請之社也云社の

邊七景有畧之此邊と青木庄也云

○金鰲山寶鏡寺 曹洞宗 其村 相傳 後花園院寛正年中草創

關山雞岳永金和尚寺領四石余此邊長塚者是風土記

所載祿垣塚也云風土記曰土俗相傳往昔有大蛛而害土民時役

小角來而為其封此一墓其後死其害号祿塚者其墓邊

有竹篠者也云雞岳永金和尚寺以建立の時山上に祠

を立小祿明神を祭る今いふは長塚の邊篠を

生又其村の内祖里に云所に藥師堂有其村の藥師也 屬長 雙寺

○上暮地村の谷川乃中又富士形の奇石有又此邊別當澤

此云所より鈴杵あしり形の奇石出於此邊云此山云高

山名八代郡一越る徑路有り

○引接山西方寺 海王宗 小見村 相傳 後堀河院嘉祿二年草創開

山祖底禪師 新田大炊 義重之丞男 臨濟宗を号方山寺其後 後陽成院文祿

元年當宗より西方寺と改本尊十二面觀世音 新田義重所尊崇 多田満中之作也

○下宮淺間明神 下高村 祭神二座木花開耶姫命雅日靈貴也鎮

座不詳社中又杉の古木有周圍二丈八尺余俗呼之神代杉と云

九月十九日流鏑馬の祭祀有又二丁許東に渡邊明神の社

有應神天白と渡邊氏の祖神と合祭り此邊を桂川の庄と云

○水上山月光寺 臨濟宗 下高村 相傳 祢光院應永年中絶學相能

明鏡社
禪師再興也寺領十六石當寺、往昔天台宗之風土記所載
白蓮寺也云風土記曰寄田三十五束三字田雲邊上人寶
年中寫百部經玉納此寺側白蓮池者書寫之硯水之小
池也後為大池勞熱病時疫者沐此白蓮池驗功如奇云此
池今尚存鳴琴泉と云迄き以まゝ白蓮寺といふ也又
寺中七景と云有畧之

○宮守明神 下吉田村 祭神三座大己貴命素戔鳴尊少彦名命
也又子、推現と云相傳風土記所載宮守神社也杉の古木
有俗云一本杉と云又月光寺の池より流る水を宮川と

いふ是宮守川也と云

○淺間明神 上吉田村 祭神木花閼耶姬命也相傳 正親町院

永祿年中武田機山侯建立也四月上の申日祭祀有迄き頃

造営有て、羨麗あり鳥井高五丈八尺五寸額の銘云三國

第一山 無双金剛入道 二匹親王真蹟 護磨堂 鶴島村 法華寺持 二王門 下吉田村 月光寺持 此地

富士へ登山と吉田口と云宗祇法師此地よりくまをいふ

きしりやこひの教ありて

○諏訪明神 上吉田村 祭神建御名方命也淺間社の地主神也

七月廿二日夜里人家、燒算る祭社領十石余

○吉積山西念寺 時宗 上島村 相傳 後冷泉院康平年中源頼義

朝臣建立也中古一遍上人の開祖と云寺領三千石余号富道場

○吉祥山上行寺 日蓮宗 上吉界 相傳 龜山院文永六年日蓮上人

紫の菴を結び百日乃間讀經しめし地也其後

後醍醐天皇元徳二年日仙上人再興号經嶽

○新屋村新屋鐘ヶ淵鐘ヶ淵と云あり土人右傳往昔天正のあり

武田北条合戦の時陳鐘を以淵に沈めりより鐘ヶ淵と云

○淺間明神 河村 祭神木花開耶姬命也相傳 平城天皇

大同年中坂上田村丸建立也四月上の申日祭祀有社領九町

一段六畝余此地上古の驛と云延喜式所載河口驛也代

郡藤の木越於山を御坂と云行程三里有此地往昔八代

郡ありしを近來都留郡に屬し此東北の山は大山祇命の

社有山宮と云稱

○御室淺間明神 眞山 祭神木花開耶姬命也鎮座不詳相

傳 正親町院天正年中武田機山侯再興也神殿の側ら機

山侯の木像有九月十九日流鏝馬の祭祀有社領十二石

是より二里許より上小御嶽権現の社あり

○天神社 大嶽村 祭神菅公也と云鎮座不詳國人牛馬の

病阿れ此神社を祈念せしむる驗と云ふ按て是京
都五条の天神を勧請しむる社あり五条天神大己貴命
少彦名命と名ありし是醫の祖神也神代卷曰大己貴命
與少彦名命戮力一心經營天下後為顯見蒼生及畜生則定
其療病方之今菅公を祭と云ふ後世誤傳下しとありん此
邊を大原の庄と云

御手洗淺間明神大石村祭神木花開耶姫命也相傳往昔武田
信光朝臣當社を參詣しむる祈願ありしと武田家代々
崇敬也と云社領一町六反余里人相傳武田信光の庶子也

て十六世の孫を大石助左衛門と云元和の頃淺野氏當國
を領しむ時淺野家も其後元録のあり義士の名
を得たる大石内藏の助左衛門と云兼ありと云

○十二嶽役行者堂大石村相傳後小角此地より初て富士を
登山きりけるとあり今又駿河國大宮淺間明神の神官此
地より來り此里の庄屋桑内と云登山と云其謂也と云本朝
文粹載都良香富士記其高不可測山名富士取郡名也山
腰以下生小松腹以上無復生木白沙成山禁登者止腹下不
得達上以白沙流下也相傳昔有役居士得登其頂後禁登者

皆照額於腹下有火泉出自腹下遂成大河下畧 永録六年
諸國旱魃之雨を祈る其時武田家より三の飯を納め今亦
いづれも雨を祈る時此劍を水中に投じれば必し雨降る

○海雲山東光寺

臨濟宗 長濱村

草創不詳相傳中古夢窓国師

再興ありと云予按み風土記所載八代郡東限東光寺谷也ハ

此寺あり今八代郡都留郡兩郡の境に小山あり

○鳴澤

土人相傳往昔大なる瀧あり鳴瀧と云其瀧の水

流に似る山澤を鳴沢と云し之何れの代より絶えたり今鳴

沢村通玄寺と云禅院に瀧の跡と云泉湧出たり或人云鳴瀧

郷音くむの流あり其流は河なり然るに風土記所謂大

田川あり今此邊は大田和と地名有萬葉集東歌

佐奴良久波多麻乃緒婆可里古布良久波布自能多可祢乃

奈流佐波能其登

○富士山

甲斐駿河の境に有萬葉集卷三詠富士山歌

奈麻余美乃甲斐國打縁駿河國與已知其知乃國乃三中從

出立有不盡乃高嶺者下畧 古詠數多有之畧之

日本後紀曰 桓武天皇延暦十九年六月癸酉駿河國言自

去三月十四日迄四月十八日富士山嶺自燒昏則燒氣暗冥夜

則火光照天其聲如雷灰下如雨山下河水皆紅也

三代實錄曰 清和天皇貞觀六年六月十七日甲斐國言富士

山忽有暴火燒碎齒齒草木焦熟土鏢石流埋八代郡本

柘並剗而水海水熱如湯魚鼈皆死百姓居宅身海共埋或有宅

無人其數難記而海以東亦有水海名曰河口海本柘剗等海

未燒埋之前地大震動雷電暴雨雲霧晦冥山野難辨然後有

此災異焉

本朝通紀曰 後醍醐天皇元弘元年七月七日大地震富士

峯崩數百丈云

東山院實永四年自十一月廿二日迄十二月八日富士山自燒出

近國灰下如雨其時半嶺小山湧出今名寶永山是也

稱富士八湖者 河口湖 都留郡 山中湖 同郡 明見湖 同郡

精進湖 八代郡 本柘湖 同郡 西湖 同郡 牙葉集所詠石花海也西八世の

音を備へて後世ありと訓みく誤るなり仙覺抄に山の乳乃乃又る湖也と有り万葉みせの海と名付てあるとゆゑは八湖也

志比礼湖 同郡 須戸湖 駿河國柏原の内なる一流其長峯の池をい

追加

○大原山如來寺 一向宗新倉村 右傳當寺、風土記所載救願寺也

風土記曰寄田五十三九三字田和銅二年己酉三月念行比

丘修菩薩戒之地也云云 中古万藏寺と真言宗あり其後
又如来寺と改め當宗とあり也

○秋山の榎井村の邊鬼石沢中云所云鬼の觸髅云々の言
徑凡二尺余ありて弱檜生貫ぬる其阿つた鬼の骨を
數多阿の主人相傳述昔阿の頃より有らん鬼多く里民を
害り時々諸神等彼鬼を退治しつゝ鬼を斬り
ゆゑ今山神とありと云

○加茂山神社 ○東燈大明神 ○福地八幡 ○行滿寺
此等の寺社風土記所載也今不詳後の考を待のこ

甲斐名勝志卷之五終

美申名勝志跋
秋士讓著甲斐名勝志
投予請跋其後受讀再
之神祠佛龕古蹟靈場
如指掌然猶且所祭
尊禘刑祖德行 朱璽

中興名媛志 跋
一
有無悉載焉如直臨其
境而入其門同擊親見
坐是知其詳也豈不愉
快哉夫篋中固乏載籍
非考索古典斟酌百家
以徵之不能矣况終似

者不少則其勤勞者不
可勝言者也予嘉其志
終不撓能成其功不顧
續貂之消漫書卷未如
所由賀先生之序已悉
矣今不贅于此

天明之年癸卯九月

源憲時撰

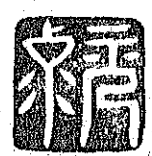


伴希真書



甲斐國山梨郡田中

萩原元克藏板



東都剞劂

西冲考

